



日野
多摩
稲城

地区保護司会だより



多摩市

—— 就任にあたって ——

東京保護観察所立川支部 宇田 紀之 主任観察官



本年4月から、日野・多摩・稲城の三市を担当させていただき、保護司の皆様には日頃から、保護観察、生活環境調整、非行防止活動及び保護司候補者検討協議会など多岐にわたりお世話になっております。

更生保護とは、犯罪をした者や非行のある少年に対し、再び犯罪をすることを防ぎ、又は非行をなくし、善良な社会の一員として自立し、犯罪や非行をした人の改善更生を助け社会を保護することを目的としていることをご承知のとおりです。昨年の犯罪白書において「少年・若年犯罪者の実態と再犯防止」が取り上げられ、25歳未満の若年者で保護観察付執行猶予を受けた者のうち、約47%が過去

に少年院、保護観察、児童自立支援施設送致などの保護処分を受け、同様に入所受刑者の約38%が上記保護処分歴を有していたことが明らかになりました。また、若年者で罰金以上の刑事処分を受けた約39%が少年院出院者であったとの調査結果がまとめられております。改めて若年者の再犯防止には少年時の犯罪傾向や生活環境等の改善が求められることが印象に残りました。

このような調査結果を踏まえ、今後とも地域社会の理解と協力を得ながら、保護司の皆様を支えられている責任の重さを感じ、本人の自助努力を引き出すための方策又は再犯の危険性を低くする方策を探りながら、職務に努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

各分区の活動

【管外研修で学ぶ】

日野分区

分区長 土方喜久弘

●神奈川医療少年院を視察

10月10日、分区保護司19名で相模原市中央区にある施設を視察。当施設は家庭裁判所の審判で少年院送致の決定を受けた、おおむね12歳以上20歳未満の男子少年のうち知的障害者及び発達障害者を収容し、必要な治療・教育を実施している。収容区域は、北海道・東北・関東甲信越及び静岡となっている。

他の少年院との違いに3つの特色がある。

①能力の差…知能指数がアスペルガーの場合130以上の少年もいる。知的障害の場合は40以下とかなりの差がある。②非行のタイプ…単独犯が多く、窃盗・わいせつ行為等人との関わりが上手くいわずに孤独なストレスや欲求を押さえる事ができず非行に及んでいる。③身元引受人がなかなかいない。福祉ケアが必要だが帰り先が不透明でケアができない。

出院後に地域で受け入れてくれる福祉関係・団体のネットワークが必要との事で、施設内のきめ細やかな処遇法が参考になった。



多摩分区

分区長 伊野 光雄

●女子少年院「愛光学園」を視察

晩秋の11月1日、多摩分区で狛江市にある女子少年院の愛光学園へ研修訪問しました。家庭裁判所で少年院送致の決定を受けた14歳から20歳未満の女子少年を収容し、非行から立ち直り、健全な社会人になるよう矯正教育を行う国の施設です。4ヶ月以内の特修短期処遇、6ヶ月以内の一般短期処遇、2年以内の長期処遇に分かれていて、絆・自尊心・健康を指針として掲げ、屋内プールも併設され

ています。素直そうな生徒が多く、真摯な授業態度が廊下から見られました。

廊下にあった親への過去の反省とこれからの決意を綴った絵手紙が心に染みわたりました。面会室には生徒の作品による家庭の温かさを髣髴させる団欒の絵が飾られていました。

今まで、家庭では味わえなかったお月見など四季折々の行事が行われ情操教育に力を入れているという印象をもちました。自己研鑽努力で健全で幸せな社会生活が一日も早く訪れることを願って学園を後にしました。



稲城分区

分区長 粟井 洋子

●更生保護法人 八興社を視察

11月16日午前中、国立市にある八興社を19名で視察しました。高野会長からの挨拶、會田補導主任の施設の現状説明を受けて施設内を見学しました。平成24年5月に改修工事が完成したということで非常にきれいな施設でした。定員20名のところ現在15名の収容。経営面では厳しい状況にあり、入ってくる人はほとんど再犯の人である。何よりも施設を近隣に理解してもらうことの難しさの話がありました。このような更生施設が自立できることを願うばかりです。

●府中刑務所を視察

午後は府中市にある府中刑務所を視察しました。刑務所のルーツは長谷川平蔵設置の石川島人足寄場で、現在の受刑者は2,656名、平均再犯歴4.7回、最高44回という説明の後に、施設内を見学しました。歴史と規模が日本一の刑務所であることを実感しました。



第31回多摩地区 更生保護事業関係者顕彰式典

7月6日(金)立川第二法務総合庁舎に於いて、第31回多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典が開催されました。

本年度の受彰者は129名（保護司56、更生保護女性会員61、保護司会事務担当者4、BBS会員6、協力雇用主1、更生保護施設職員1）です。

当地区から下記の6名が受彰されました。

●保護司受彰者

塩沢京子 石川ちづ子 戸丸久恵
角田政信

●更生保護女性会受彰者

下田サナエ 勝村奎子

式典後の第二部は、慶應義塾大学商学部教授中島隆信氏による約1時間の講演「更生保護



の現状と評価」が行われました。

『刑務所の経済学』の著者で経済学の専門家である中島氏が、多くの調査・取材を重ねて得た、裁判・刑務所・少年犯罪・更生保護等についての実情と問題点を講演されました。

社会参加活動実施

今年6月、京王稲城駅と百草台コミュニティセンターで実施しました。対象者の参加がいずれの場所も少ないのが現状です。参加した対象者の感想は「参加することに不安があったが、人の為になることをしたり一緒に作業をしながら人の温かさを感じて参加して良かった」等、この事業の主旨が対象者に伝わっていることを感じ、一人でも多くの対象者にこの体験をしてほしいと思いました。

今年度の地域活動推進協議会は「これからの社会参加活動」がテーマで、保護司として改めて認識する機会になったと思います。

平成24年度第6ブロック 保護司組織運営連絡協議会開催

今年度は、西多摩地区保護司会が当番地区として、羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」において11月14日に開催されました。

今年度から協議会のテーマの設定方法が変わり、協議会1：では「保護司候補者の確保と保護司の育成」と「地域との連携強化」の2つから1つを選択し協議することになり、「地域との連携強化」になりました。



地区を代表し発表する大須賀・北島両保護司

また、協議会2：では各ブロックごとに自由に決める「自由議題」となり、「更生保護サポートセンターについて」を議題としました。

テーマ1：「地域との連携強化」は、日野分区の大須賀良子氏が自己の担当した保護観察の体験から、地域との連携の必要性や課題、改善策等の内容で意見発表されました。

テーマ2：「更生保護サポートセンターについて」は、多摩分区で企画調整保護司の北島一誠氏がサポートセンター百草台の現状や設置後の効果や課題等の内容で発表されました。

期 日	6月14日	6月23日
施設名	京王稲城駅 南側ロータリー	日野市百草台 コミュニティセンター
対象者	1人	1人
保護司	12人	14人
観察所	1人	1人
活動内容	ボランティア等総数28人で壁面の植物の剪定	花壇の草取り・植栽 校門付近の草取り・剪定

京王稲城駅前→
ロータリーで刈込



←日野市百草台コミュニティ
センターの花壇整理

社明運動の理解を得るため、啓発活動に注力

稲城市では「社会を明るくする運動」の展開を初心に戻り、協力者への啓発活動をより活発化させ、意識の向上をはかり、よりレベルの高い運動を行うことにしました。

参加者は各種団体とも初めて参加する方が多いため、この運動の意味や重要性の話をして理解を深めてもらいました。又協力してくれる学生の皆さんにも各学区の担当保護司が教育委員会・学校の協力のもと各中学校を訪れて、朝礼や他の時間帯に今までの協力のお礼、これからのお願いをするなど啓発活動を行い、この運動を理解してもらいました。



今年も高橋推進委員長(市長)先頭に立って

稲城分区

第6

社会を明るく

犯罪や非行 立ち直りを支える



今年から「稲城なしのすけ」くん参加

◆ジャイアンツ球場他7ヶ所で市民に呼び掛け

稲城市の街作りの一環として「明るい社会」を育てることを市全体で行い、成功させたいとの願いを込めて7月1日に行動を開始しました。

当日は市内のJR・私鉄の駅6ヶ所、バス停1ヶ所の計7ヶ所で、及びジャイアンツ球場でも7月4日に啓発活動を行いました。

近隣の各種団体、及び各中学校の生徒・先生方が朝7時に集合し活動を始めました。

◆市内全中学生が心を込めて作った折り鶴を配布

市内の中学生全員で「明るい社会」を願いながら折った鶴を、ポケットティッシュの中に入れて配りました。朝の通勤・通学の忙しい中で手渡しする側と受け取る側の言葉を掛け合う姿には一瞬の“心のふれあい”が感じられました。又、一生懸命に呼びかける中学生と各種団体協力者には色々な激励の言葉がかけられる様子があちこちで見られました。



東京ヴェルディからも応援

さらに各地域の自治会、町内会の色々な組織が各々の特徴を生かした方法で始まる夏祭り・盆踊り・運動会・防災訓練にと…「社会を明るくする運動」が続きました。

今年の「社会を明るくする運動」の参加者は次のとおりでした。

- ・参加団体 23団体
- ・内訳 参加中学校 6校
(生徒数143名、先生26名)
- 参加人数 373人



ジャイアンツ球場前で呼び掛け



稲城なしのすけ・ヴェルディくんそろっての応援



稲城長沼駅前

日野分区

子ども・いきいきふれあいステージ 今年の日野市立七生中学校で開催

2回 明るくする運動

犯罪を防止し、
地域のチカラ

7月7日(土)日野市立七生中学校体育館に於いて第62回「社会を明るくする運動」"子どもいきいきふれあいステージ"を開催いたしました。

馬場日野市長を委員長とした推進委員会を発足し、行政の協力と会場校の七生中学校、参加校の日野市立日野第二小学校そして日野市立南平小学校のご理解とご協力のもとに、当日を迎えることができました。

当日は早朝より、七生中地区育成会、七生中PTA役員、おやじの会の方々にご協力を頂き、当会との新たな絆ができました。



馬場推進委員長(市長)挨拶

◆当日のセレモニー

土方日野分区長の開会宣言に始まり、社明推進委員長の馬場市長挨拶、次に日野市教育委員会米田教育長、東京保護観察所立川支部鈴木統括官、当保護司会佐伯会長、七生中学校中村宏校長。続いて日野警察署天辰少年係長、日野市総務部植本部長、日野第二小学校中村康成校長、南平小学校松永式子校長、七生中地区育成会野澤会長、当地区更生保護女性会八木会長の紹介がありセレモニーは終了しました。

◆子どもいきいきふれあいステージ ♪♪♪

- 1. 防犯トーク 日野警察署(特別出演)
- 2. 器楽合奏 日野市立日野第二小学校
- 3. 金管バンド 日野市立南平小学校
- 4. 吹奏楽 日野市立七生中学校吹奏楽部



日野第二小学校
「器楽合奏」

◆協力校三校への贈呈式と閉会式

推進委員会より感謝状、当日日野分区より社明広報用品等、更女日野分区より手作りグッズを贈呈。最後に更女川瀬日野分区長の閉会の辞により終了しました。(総参加数：610名)



七生中学校「吹奏楽」



南平小学校「金管バンド」

◆今回の社明運動参加の皆様へ感謝

短期間でご指導された音楽担当の先生方、みごとな演奏の出演者、前日の会場作りに協力してくれた部活中の生徒、呼び掛けに応じて頂いた30自治会の皆様、ご来場の方々に感謝すると共に心をひとつにして大合唱した「翼をください」、この感動が地域に深く根付くことを期待したいと思います。



贈呈式



前日の会場作り

多摩分区

更生支援と犯罪の抑止、 熱い思いを込めたパレード



梅雨明け前の7月16日、多摩美術大学美術館前の広場には、银杏の木陰に次々と参加者が集まりました。例年より早めの海の日で、暑さ対策を講じての多摩市第22回目の啓発パレードでした。冷湿布を首に貼り、クーラージャグを設置して参加者を迎えました。

更生支援と青少年の犯罪を抑止し、安心・安全な社会を願っての啓発パレードに、市内の小中学生に参加を呼びかけ、この運動を通して主体的に社会を明るくする意識の高揚を図ろうという多摩分区の熱い思いが込められたパレードでした。

集合時刻が近づくにつれ、サンリオピューロランドへ続く歩道にあふれるばかりの人々が集まりました。

◆聖ヶ丘小学校のブラスバンド、先頭に立って盛り上げる

先生と保護者の方々が見守る中、聖ヶ丘小学校50数名のブラスバンドが音合わせの演奏を始めました。子供たちの顔には、運動の趣旨を理解して、その先頭に立つのだという熱い意気込みが見られました。

一方、休日の部活を終えて通学バックを抱えて集まってきた中学生の顔も見られました。パレードの道々では、その手から啓発ティッシュを通行人に手渡ししてくれました。



阿部推進委員長（市長）を先頭に行進



キティちゃんも参加

◆前年度を上回る 参加団体、参加者数

今回は、小学校2校、中学校7校（2校増）の合計9校。参加児童生徒数は、198名（35名増）と少子化傾向の今日、逆に増え続けています。全体では、57団体（2団体増）、764名（57名増）の参加者数でした。



聖ヶ丘小学校ブラスバンドの皆さん



今年もヴェルディくんと共に進行

閉会式のパルテノン大階段では、幅いっぱいの人たちで、一枚の集合写真では、顔が小さくなってしまふほどで、嬉しい限りの社明運動となりました。



パルテノン大階段で

新任保護司紹介

ご活躍を期待します

平成24年9月1日委嘱

保護司になって



松永 健
稲城分区(地活部)

このたび保護司として、推薦・任命された事について、自分なりにはこの年迄の「経験」や経過した人生の中で、たくさんの選択をし、地域社会の一員として生活できているからだと思っています。今後できる限り研修を受け、肩に力をいれず「話」をし、意欲を持って更生保護に携えればと考えております。諸先輩方よろしく願いいたします。

視察研修 甲府刑務所を訪問

平成24年9月26日(水)・27日(木)

当日、各分区の集合場所を廻って参加者総勢36名は甲府に向かいました。車内で「薬物乱用」対象者への接し方・苦労話などを聞きながら甲府市に入り、昼食後、甲府刑務所に到着しました。

当刑務所は26歳以上で刑期10年未満の男子懲役刑受刑者が収容されています。収容定員は618名で罪名は覚醒剤・窃盗・強盗傷害が多く、また高齢者、外国人受刑者の収容も多い等の特色があります。

中庭には母の鈴の碑があり「心に迷いが生じた時には、鈴を鳴らして母を思い出しよう二度と罪を犯さないで」と呼びかけています。

施設の炊事棟・生活房・職業訓練棟を見学、当所では応接セット・革製品を中心に制作しており、当日の展示即売会では刑務官のユーモアあふれる説明で買い物も多いにすすみ、刑務所の視察は大変有意義に終了しました。



退任保護司紹介

永い間ご苦労さまでした

平成24年8月31日付

多摩分区 在職26年 津守 弘範氏
保護司となって26年間皆様方には大変にお世話になり厚く感謝申し上げます。

思うに26年前、父が昭和61年8月31日に亡くなり、その翌日が保護司の辞令日で、出席出来ませんでした。今まで多くの関係者や仲間達との思い出が心に残っております。

弘法大師の言葉に「仏法は遙かに非ず心中にして即ち近し」とあります。これは日本人の心を良く表した言葉だと思います。心の支えとなってこれからも頑張っております。

平成24年8月31日付

日野分区 在職20年 大沢 正男氏
人生には、いくつかの節目があります。その一つ保護司として20年、多くの先生方のご指導を頂き、自己の不足部分を補足し活動できたこと、この上ない大きな喜びであります。また、女房・子ども・孫達の理解と協力に支えられたことも活力の源となりました。

社会を明るくすることを目指し、更生保護活動に精進できたのは、知識・技能の研鑽と同じ認識を持つ方々(つぐぶ)と活動を進められたことが大きな力となったと熟感しています。

多摩連ホームページ 立上げについて

多摩地区保護司会連絡協議会(多摩連)のHPが立上りました。「多摩地区保護司会連絡協議会」または「多摩連」で検索し、「多摩地区保護司会連絡協議会トップ」より閲覧が可能になりました。

HPでは多摩連の活動状況・各地区保護司会の紹介・更生保護に関する基礎知識等の内容が紹介されています。保護司としての情報共有、知識向上のためご利用下さい。

サポートセンター百草台 “千客万来”

◆法務省保護局奥田恩赦管理官が視察

5月25日、恩赦管理官奥田洋平氏がセンターの視察に訪れました。氏は今年度より恩赦担当官となり、保護局長より「文章を読むのも良いが、現場の実態を見てくるように」と言われたとのことで、当センター視察後、「いのちのミュージアム」・府中刑務所の視察を行いました。管理官には当センターの設置経緯、機能・役割、設置の効果、運営上の課題などを説明し、施設見学後意見交換会を行いました。

◆北区保護司会が視察

8月10日、北区保護司会の乙川広報部長をはじめ5名の保護司が当センターを視察に訪れました。北区保護司会は、平成24年度に都内で新たにサポートセンターを設置予定の12保護司会の1つで、現在センターの開所に向けて準備中とのことで今後の運営の参考にするため、先進地区である当センターの視察を企画したとの



ことでした。当地区より、保護司会の概要、センターの設備、運営方針・方法、課題等について説明を行い、施設見学後、意見交換会を行いました。北区保護司会からは、センターが百草台に設置された経緯や企画調整保護司の人選方法等についての質問が寄せられました。

◆愛知県豊田保護司会みよし支部保護司会・更生保護女性会の見学

9月5日に上記団体（保護司11名、更女24名、事務局1名）がセンターの見学に訪れました。「いのちのミュージアム」視察研修後の約1時間程度の見学会でしたが、活発な質疑が行われました。

更生保護女性会

府中刑務所を視察

平成24年10月30日(火)

場所：府中刑務所

穏やかな秋日和の午後、日野・多摩・稲城地区更生保護女性会会員48名で府中刑務所を視察しました。日本最大規模の刑務所で敷地面積262,058㎡、収容定員2,842人、職員数602人。日本人男子受刑者の他、近年外国人受刑者も多く収容されています。

画像説明後所内を案内して頂き、独居室、集団部屋等を通り作業所を見学しました。食事は重労働A食、軽労働B食と分けています。技術を修得する自動車整備士など、取得場所で社会に出て不利にならない様にと配慮されています。最後に、彼等が二度と此処には戻らないことを祈りつつ正門を後にしました。



表紙写真の説明

多摩市 来年、東京都で開催される国民体育大会のリハーサル大会として「第17回ジャパンオープンハンドボールトーナメント(女子の部)」が8月10日から12日にかけて多摩市立総合体育館で開催されました。決勝は香川銀行T・HとHC高山の対戦となり、接戦の末、香川銀行T・Hが優勝しました。写真は香川銀行T・H選手のジャンプシュートの場面です。来年の国体には是非ご来場を。

編集後記

年間で最大の行事である「社会を明るくする運動」も無事終了、皆様大変お疲れ様でした。猛暑・震災復興・いじめ等、今年もまた課題が山積みされた年でした。各人将来に向けて知恵を出し合い、平和で明るい社会を築き上げたいものです。

さて、これまで寄稿された皆様方には部員一同、心より感謝致します。来年は良い年がありますよう、お祈り申し上げます。

日野市百草999番地 042-593-0950
メールアドレス：vpocentormog@true.ocn.ne.jp

編集 広報部